

畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村井嘉浩
発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編集発行人
佐野和夫
印刷所
(株)東北プリント



岩手競馬 地方競馬ミルクウィーク2026 (令和8年3月15日 岩手県水沢競馬場)

もくじ

C O N T E N T S

令和8年度畜産施策の基本方針と主要施策……………	2-4	家畜の病気と向き合う……………	8
令和8年度畜産・酪農経営安定対策及び畜産物価格について……………	4-5	衛生便り……………	9
価格安定対策事業の発動状況について……………	5	農業大学校生の抱負……………	9
令和8年度宮城県獣医師修学資金受給者募集……………	6	畜試便り……………	10
第33回「仙台牛」の集いが開催されました……………	6	人の動き……………	11-12
令和7年度肉用牛研修会開催報告……………	7		
馬事畜産振興の活動報告……………	7		



みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <https://www.miyagi-chikusan.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



令和8年度 畜産施策の基本方針と主要施策

宮城県農政部畜産課
宮城県農政部家畜防疫対策室

I 基本方針

本県の畜産は、新・宮城の将来ビジョンで掲げる「富県宮城の躍進」の達成に向けた重要な基幹産業と位置づけられ、令和6年の畜産産出額は約774億円と県農業産出額全体の約3割を占めるなど、安全で良質な畜産物を消費者に安定的に供給する畜産主産県としての地位を確立しています。

平成23年3月に発生した東日本大震災に起因する東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響については、15年を経過した現在でも生産現場に影響を与えていますが、市町で一時的保管されていた農林業系汚染廃棄物の焼却処理、すき込み処理が進められています。

一方、日米貿易協定やCPTPPなどの経済のグローバル化による輸入畜産物との競争、急激な人口減少及び高齢化に伴う担い手の減少、全国で頻発する高病原性鳥インフルエンザや豚熱などの特定家畜伝染病への防疫対応に加え、昨今の輸入飼料をはじめとする畜産生産資材価格や消費者物価の高騰は、生産・流通・消費に多大なる影響を及ぼしており、本県の畜産を取り巻く環境は益々厳しさを増しています。

このため、これらの状況に柔軟に対応するとともに、資材高騰の影響を緩和し、持続的な畜産経営の発展を図るため、令和8年度は新たに県産畜産物のブランド力強化や、雇用型研修による畜産担い手育成、夏季の暑熱など気候変動に対応する取組を進めるとともに、「新・宮城の将来ビジョン」や、第3期「食と農の県民条例基本計画」、また、令和8年度に見直しを行う「宮城県酪農・肉用牛生産近代化計画」の実現に向け、市町村・JA・畜産関係団体と連携し、次の重点項目に取り組みます。

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 儲ける畜産経営と持続的な畜産の推進 | 2 安全・安心な畜産物の生産支援 |
| 3 畜産基盤整備による農村の振興 | 4 復興完了に向けたサポート |

II 主要施策

1 儲ける畜産経営と持続的な畜産の推進

儲ける畜産経営を実現するため、実需者を意識した畜産物の生産体制や「仙台牛」に代表される「食料王国みやぎ」の畜産物ブランドの推進、家畜改良による生産性向上や畜産新技術の開発・普及を推進します。また、地域が抱える諸課題の解決と経営の体質強化による経営安定を図るため、畜産クラスター事業を積極的に活用し、収益性ととも、持続性の高い畜産経営の実現を支援します。

(1) 儲ける肉用牛経営の実現

現場後代検定で脂肪交雑が日本一となった「茂福久」号に続く優秀な種雄牛造成、産肉能力や繁殖能力に優れた高能力雌牛群の整備、受精卵移植技術の活用、肉用子牛価格の安定、畜産の経営改善と技術向上を図るとともに、脂肪の質や霜降りの細かさ（小ザシ）などの新たな指標に着目した高品質な肉用牛生産、収益性の高い肉用牛経営の実現を図ります。

○第13回北海道全共出品対策事業

令和9年度に開催される全共北海道大会へ向け、ゲノミック評価に基づく出品牛の選定など、継続的な出品対策を講じることにより、仙台牛の生産基盤強化とブランド力向上を図ります。

○デジタル技術による仙台牛のプレミアム化プロジェクト（仙台牛差別化、改良加速化）

消費者嗜好の多様化や、脂肪の量から質への転換に対応するため、「小ザシ」や「脂肪の質」の改良による「仙台牛」の更なるブランド力向上を推進します。

○肉用牛集団育種推進事業

繁殖農家、肥育農家の協力を得て優れた種雄牛を造成するとともに、能力の高い繁殖雌牛群の整備により、高品質のブランド牛肉「仙台牛」の生産基盤を強化します。

(2) 活力ある畜産の振興

乳用牛の改良とともに、生産能力を最大限に発揮するため、牛群検定の活用や、暑熱対策を推進します。また、県独自の優良種豚の生産体制の強化や、中小採卵養鶏・養豚生産者の生産物販売支援、輸入飼料や資材高騰対策として自給飼料の生産拡大、気候変動対策、家畜由来堆肥の活用促進により、畜産生産基盤の安定化を図ります。さらには、酪農ヘルパー事業への支援や、新たに畜産担い手確保対策により、将来にわたって活力ある畜産が継続されるための取り組みを推進します。

○乳用牛群検定普及定着化事業・乳用牛群検定指導強化事業

乳用牛群検定の実施、指導員を対象とした研修会の開催や効果的な検定実施体制の整備及び受精卵関連技術を活用した高能力乳用牛の生産を推進します。

○酪農暑熱対策推進事業

近年問題となっている夏季の高温に対応するため、酪農における暑熱対策設備の導入支援や実証展示を通じて、技術の普及を図ります。

○県産銘柄豚生産体制・ブランド強化事業

系統豚「しもふりレッド」をベースとした新たな宮城県のデュロック種を造成し、県産銘柄豚の生産体制やブランドの強化を図ります。

- 持続的畜産の実現に向けた消費と生産の好循環プロジェクト
持続的な地産地消を推進するため、意欲ある中小規模の採卵養鶏、養豚生産者が取り組むスマート農業機器等の導入による労働生産性向上、消費者交流イベント等を通じた小売店や消費者との連携強化と畜産物の消費拡大を支援します。
- 自給飼料生産総合推進事業
輸入飼料価格高騰への対応として、稲ホールクroppサイレージや飼料用米のほか、水田における飼料用トウモロコシの生産・利用促進、食品残さなど未利用資源の飼料化（エコフィード）の拡大と飼料作物の優良品種の普及拡大を推進します。
- 食料安全保障の強化に向けた県産飼料増産プロジェクト
県産飼料の増産に向け、飼料生産組織の育成・拡大を支援し、自給飼料の生産推進を図ります。
- 家畜由来の堆肥活用促進事業
有機センターの製品堆肥の利用拡大と利便性向上の支援により、地域内の有機物の有効活用を図り、化学肥料の低減や有機質肥料の利用拡大による持続可能な農業を推進します。
- 酪農ヘルパー事業運営強化対策事業
酪農経営における「働き方改革」を推進するため、酪農ヘルパー事業によるゆとりある持続性の高い酪農経営の実現を図ります。
- みやぎの畜産人づくり支援事業
地域の中核となる畜産担い手人材を確保・育成するため、研修機関が実施する雇用型研修の取組を支援します。

(3) 畜産新技術の開発・普及

- 畜産試験場における試験研究体制を整備し、新たな畜産技術の開発と普及を推進することにより、国内外の産地との競争力強化や自給飼料確保による生産性向上を進めます。
- 県単独試験研究費・受託試験研究費
本県の特色を活かした畜産物の生産性向上と高品質化のため、牛の受精卵移植技術の活用やゲノミック評価技術の開発に取り組みます。また、新たなデュロック種系統豚の造成試験や、スマート農業技術を活用した乳牛の飼養管理試験により、家畜の生産性向上のための技術普及を図ります。さらには、国の試験研究機関や大学との共同研究等による新技術の研究開発を推進します。
 - 温暖化に対応する飼料作物栽培緊急実証事業
温暖化に対応するため、これまで関東平野以西で行われてきた寒地型の一年生作物と高温に比較的強いスーダングラスや飼料用トウモロコシを組み合わせた二毛作体系の実証を行います。

2 安全・安心な畜産物の生産支援

豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病の発生予防とまん延防止を図るため、各種伝染性疾患の検査の実施や飼養衛生管理基準の遵守を指導し、健康な家畜の生産と安全・安心な畜産物の安定供給を推進します。また、畜産物のGAP（農業生産工程管理）の取組支援により、県産畜産物に対する付加価値向上を図ります。

- 家畜伝染病予防事業【家畜防疫対策室】
豚熱、高病原性鳥インフルエンザなど牛・豚・鶏・馬・蜜蜂等の各種伝染性疾患の検査と関連する防疫対策を行い、監視伝染病の発生予防とまん延防止を図ります。
- 豚熱等発生予防対策事業【家畜防疫対策室】
養豚場での豚熱発生予防を目的とした豚熱ワクチンの離乳豚への継続接種、成豚の補強接種および免疫の獲得状況を把握するための免疫付与状況確認検査に加え、野生イノシシの検査体制の強化と経口ワクチンの散布を実施します。
- 仙台家畜保健衛生所移転整備事業【家畜防疫対策室】
多様化、頻発化する特定家畜伝染病等に対応するため、県内で唯一の病性鑑定機能を有する仙台家畜保健衛生所を、バイオセキュリティレベル基準を満たした施設として運用し、検査の安全性及び効率性を確保します。
- 獣医師養成確保修学資金給付事業【家畜防疫対策室】
産業動物獣医師や公務員獣医師の安定確保のため、修学資金や家畜診療業務体験資金の支援を行います。
- GAP認証取得推進事業（畜産物）
日本版畜産GAPの普及推進を図るため、制度の周知とともに指導員等の養成による推進指導体制の構築を進めます。

3 畜産基盤整備による農村の振興

生産基盤や畜産関連施設の整備を行い、地域の核となる畜産経営体を育成し、活力ある農村の再生を図ります。

- 資源リサイクル畜産環境整備事業
広域たい肥センターのうち、老朽化の進んだ施設や機械等の機能保全と長寿命化を図ります。

4 復興完了に向けたサポート

復興完了に向けたサポートを推進するため、汚染稲わら等の適正な保管・処理を進めます。また、放射性物質検査を通じて畜産物の安全性を確保するとともに、牛肉の円滑な出荷体制を確立します。

○放射性物質影響調査事業

粗飼料や原乳等の放射性物質濃度を測定するとともに、放射能の影響を低減するための飼料作物の栽培管理等の指導を行います。

○給与自粛牧草等処理円滑化事業

放射性物質に汚染された稲わらについて、最終処分されるまでの間、適切な一時管理を実施するため、一時管理施設の保守点検や施設補修等の維持管理を実施します。

○肉用牛出荷円滑化推進事業

県産牛肉の安全性を確保するため、県内の食肉市場に出荷される検査対象牛について放射性物質検査を実施します。

(企画管理班 齊藤 陽介)

令和8年度畜産・酪農経営安定対策及び畜産物価格について

宮城県農政部畜産課

1 酪農関係対策

「加工原料乳生産者補給金制度」については、生産者補給金が生乳1kg当たり9円11銭、集送乳調整金が生乳1kg当たり2円83銭となります。また、昨年度に引き続き、「生乳流通改善緊急事業」により生乳1kg当たり9銭の奨励金が交付されます。生産者補給金、集送乳調整金及び生乳流通改善緊急事業奨励金の合計は生乳1kg当たり12円03銭となり、昨年度に比べ13銭の引き上げとなります。なお、「加工原料乳生産者経営安定対策事業」も継続し実施されます。

2 肉用牛関係対策

「肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）」は、肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合（月毎）、その差額の9割が交付金として交付される制度です。なお、交付金のうち4分の1に相当する額は、生産者の積立金から支出されます。

また、「肉用子牛生産者補給金制度」も継続し実施されます。この制度により、肉用子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種、乳用種、交雑種）の平均売買価格が保証基準価格を下回った場合（四半期毎）、生産者に対してその差額が生産者補給金として交付されます。なお、黒毛和種の保証基準価格は昨年度に比べ26,000円の引き上げとなります。他の区分については、表3のとおりです。

3 養豚関係対策

「肉豚経営安定交付金制度（豚マルキン）」は、肉豚1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合（四半期毎）、その差額の9割が交付金として交付される制度です。なお、交付金のうち4分の1に相当する額は、生産者の積立金から支出されます。

4 採卵養鶏関係対策

「鶏卵生産者経営安定対策事業」は、鶏卵の標準取引価格（月毎）が補てん基準価格を下回った場合、生産者と国による積立金からその差額の9割（補てん基準価格と安定基準価格の差額の9割を上限とする）が補てんされる制度です。また、鶏卵の標準取引価格（日毎）が安定基準価格を下回った場合、その下回る日の30日（10万羽未満飼養生産者は40日）前から、安定基準価格を上回る日の前日まで（ただし、安定基準価格を上回る日の前日までに、食鳥処理場に予約されている場合は、安定基準価格を上回った日から起算して30日（10万羽未満飼養生産者は40日）後まで）に、更新のために成鶏を出荷し、その後60日以上空舎期間を設ける取組を行った場合に、表1のとおり奨励金が交付されます。さらに、食鳥処理場への奨励金として1羽あたり47円が交付されます。

表1. 奨励金単価

空舎期間	10万羽以上飼養生産者	10万羽未満飼養生産者
60日以上 90日未満	210円/羽	310円/羽
90日以上120日未満	420円/羽	620円/羽
120日以上150日未満	630円/羽	930円/羽

5 令和8年度畜産物価格

表2. 加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金の単価並びに総交付対象数量

区 分	令和7年度	令和8年度
総 交 付 対 象 数 量	325万トン ※1	325万トン ※2
生産者補給金の単価	9.09円/kg	9.11円/kg
集送乳調整金の単価	2.73円/kg	2.83円/kg
ALIC事業奨励金の単価	0.08円/kg	0.09円/kg

※1 別途ALIC事業で18万トンを上乗せするため、実質343万トンとなる。
 ※2 別途ALIC事業で25万トンを上乗せするため、実質350万トンとなる。

表3. 肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格

(単位：円/頭)

区 分	令和7年度	令和8年度	
保証基準 価 格	黒 毛 和 種	574,000	600,000
	褐 毛 和 種	523,000	547,000
	その他の肉専用種	334,000	348,000
	乳 用 種	164,000	174,000
	交 雑 種	274,000	274,000
合 理 化 目 標 価 格	黒 毛 和 種	446,000	457,000
	褐 毛 和 種	406,000	417,000
	その他の肉専用種	259,000	265,000
	乳 用 種	110,000	119,000
	交 雑 種	216,000	216,000

表4. 鶏卵の補てん基準価格及び安定基準価格

	令和7年度	令和8年度
補てん基準価格	230円/kg	240円/kg
安定基準価格	207円/kg	218円/kg

(企画管理班 蝦名 由璃子)

価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価

販売月	肉専用種（宮城県）	交 雑 種（全国）	乳 用 種（全国）
令和7年10月	(概算払) (14,488.4円)	(—)	(2,717.3円)
	精算払 21,409.2円	—	9,699.3円
11月	(概算払) (—)	(—)	(17,499.8円)
	精算払 —	—	24,517.8円
12月	精算払 —	—	64,852.2円
令和8年1月	(概算払) (—)	(—)	(30,364.4円)

- ◎肉用子牛生産者補給金（子牛補給金） 令和7年度第3四半期（10月～12月）交付なし
- ◎優良和子牛生産推進緊急支援事業 令和7年度第3四半期（10月～12月）交付なし
- ◎和子牛産地基盤強化緊急特別対策事業 令和7年度第3四半期（10月～12月）交付なし
- ◎肉豚経営安定交付金（豚マルキン） 令和7年度第3四半期（10月～12月）交付なし

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい！」という方は地方競馬全国協会までご連絡下さい。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト（<http://www.keiba.go.jp/>）でもご覧になれます。

(担当：審査部登録課 電話03-3583-2142)

令和8年度宮城県獣医師修学資金受給者募集

宮城県農政部家畜防疫対策室
一般社団法人宮城県畜産協会

【修学資金の内容】

県内の産業動物獣医師又は家畜防疫員を志す学生に対し、共同負担者と協会が半額ずつ負担し修学資金を給付します。

【受給者募集の内容】

共同負担者	宮城県
給付対象者	獣医学を履修する課程に在学する大学生で、卒業後宮城県職員（農政部：家畜保健衛生所、畜産試験場等）に獣医師として勤務しようとする方
募集人員	1名
給付限度額	国公立大学生 10万円/月、私立大学生 18万円/月
給付期間	契約した年度の4月から卒業まで
提出書類	①申請書 ②学長の推薦書 ③健康診断書 ④戸籍謄本 ⑤学業成績証明書 ⑥保護者等の収入を証明する書類 ※①、②の様式は、(一社)宮城県畜産協会のホームページよりダウンロードできます。
提出期間	令和8年6月30日(火)まで(予定)
選考日時・場所	令和8年8月(予定) 宮城県庁
選考方法	書類審査、小論文及び面接
給付条件	県職員採用試験に合格し、大学卒業、獣医師資格を取得し、宮城県職員（農政部、家畜保健衛生所、畜産試験場等）に獣医師として、一定期間以上勤務した場合、給付金全額の返還が免除されます。
返還義務	給付期間中に退学した場合など、給付条件から外れた場合、原則として返還義務が生じます。
採用・勤務条件等に関する問い合わせ先	宮城県農政部家畜防疫対策室衛生安全班 TEL：022-211-2854
修学資金に関する問い合わせ先・申請書類提出先	一般社団法人宮城県畜産協会 総務課 〒983-0832 仙台市宮城野区安養寺3-11-24 TEL：022-298-8471 HP (URL)：https://www.miyagi-chikusan.jp/vet-shugakusikin

- 希望者は先ず、お電話で内容をご確認ください。
- 宮城県農政部家畜防疫対策室、宮城県農業共済組合以外に給付者を募集したい事業者は、協会までご連絡ください。
- 給付条件の一定期間とは 給付月額が10万円ならば給付期間の2分の3
給付月額が18万円ならば給付期間の3分の5で計算した期間。

(宮城県農政部家畜防疫対策室衛生安全班 鈴木 歩)
(一般社団法人宮城県畜産協会総務課 山崎 哲)

第33回「仙台牛」の集いが開催されました

全国農業協同組合連合会宮城県本部

令和8年2月2日に仙台牛銘柄推進協議会主催の第33回「仙台牛」の集いが江陽グランドホテルで開催されました。約300名の生産者、食肉市場等の関係者、買参者が出席し交流を深めました。

当日は、村井嘉浩宮城県知事がプレゼンターを務め、仙台牛普及に多大なる貢献をされた仙台牛指定店や生産優良農家等、25組26名が表彰されたほか、宮城県農業高等学校の生徒による和牛甲子園の取り組み報告や、結成10周年を迎えた、全農宮城県本部肉牛担い手組織「仙台牛Revolutions」による活動報告が行われました。

会場では、昨年11月に開催された、農林水産祭参加 第65回仙台牛枝肉共進会にて第1部チャンピオン賞を受賞した、株式会社うめつ様の仙台牛のステーキが振舞われました。

(畜産部生産販売課 茂木 辰也)

 <p>宮城県豚銘柄推進協議会</p>	<p>宮城県産黒毛和種</p>  <p>仙台牛公式 Instagram</p> <p>仙台牛銘柄推進協議会</p>	<p>6月1日は</p>  <p>WORLD MILK DAY</p> <p>宮城県牛乳普及協会</p>
--	---	---

令和7年度肉用牛研修会開催報告

一般社団法人宮城県畜産協会

令和8年2月27日、大崎市古川「大崎生涯学習センター（パレットおおさき）」において標記研修会をNOSAI宮城との共催で開催いたしました。

講師に宮城県農業共済組合中央家畜診療センター兼家畜診療研修所 所長 川名晶子先生をお迎えし、「牛の繁殖における超音波画像診断について」と題してご講演を賜りました。

超音波診断のメリットとして、①早期妊娠診断、②卵巢機能診断、③双子診断、④雌雄判別が挙げられ、繁殖検診を活用し、経営の一助としていただきたいと述べられました。

来年も同時期に研修会を開催する予定としておりますので、多数のご参加をお待ちしております。



講師：川名 晶子 先生

(経営支援課 伊藤 利樹)

馬事畜産振興の活動報告

宮城県地域畜産振興対策協議会

畜産振興の観点から牛乳・乳製品の消費拡大に資するとともに、地方競馬が一体となった取組みとして社会貢献活動をPRするため、馬事畜産振興推進事業（地方競馬全国協会委託）において、以下のとおり普及・啓発活動を行いました。

岩手競馬 地方競馬ミルクウィーク2026

令和8年3月15日（日）、岩手県水沢競馬場において、東北6県の馬事畜産協議会合同による「地方競馬ミルクウィーク2026」を開催しました。

当日は開門と同時に、先着800名に4県の乳製品と先着300名に蔵王酪農ミルクキューブの配布を行い、午後からは先着400名に2県の乳製品の配布を行いました。当日は温かく、過ごしやすい陽気の中、乳製品のプレゼントに来場者は大変よろこんでいました。

また、第3レースでは冠レース「がんばれ！宮城県の酪農応援賞」も行われ、優勝した騎手他、3名に宮城の乳製品セットの目録が授与されました。

- 青森200名：斗南丘牧場ののむヨーグルト、プロテオグリカンののむヨーグルト

- 岩手200名：小岩井牛乳マイクロパック200ml（2本）、小岩井コーヒーマイクロパック（1本）

- 宮城200名：from蔵王プレーンヨーグルト、芳醇カフェオレ

- 秋田200名：J. ヨーグルトコーヒー®

- 山形200名：奥羽そだち200ml、県産こだわりヨーグルト

- 福島200名：酪王牛乳、酪王カフェオレ、のむのむヨーグルト

- 日本乳業技術協会300名：蔵王酪農ミルクキューブ



(事務局 (一社) 宮城県畜産協会)

岩手競馬（盛岡・水沢開催）4・5月 開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
4月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
					水	沢						水	沢							水	沢							水	沢				
5月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
											盛	岡																				水	沢

※開催期間中の重賞レース

- ・4/5(日) 第3回ネクストスター北日本
- ・4/14(火) 第51回赤松杯
- ・4/19(日) 第26回留守杯日高賞
- ・4/29(祝・水) 第38回栗駒賞
- ・5/5(祝・火) 第46回ダイヤモンドカップ
- ・5/10(日) 第51回シアンモア記念
- ・5/17(日) 第14回イーハトーブマイル
- ・5/24(日) 第27回あすなろ賞
- ・5/31(日) 第34回東北優駿

家畜の病気と向き合う ～蹄病について考える～

NOSA | 宮城

跛行（はこう）は乳牛の牛群において乳房炎、繁殖障害に次いで収入減の要因と言われており、中でも蹄病は乳牛の跛行原因の7割以上を占めているといわれています。

そのため、日頃から定期的に削蹄（さくてい）を行い、良好な蹄形を維持し、蹄病の予防や早期発見・早期治療することが重要です。

蹄病には、感染性と非感染性があります

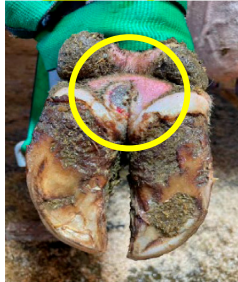


蹄病になると

泌乳量の低下や繁殖成績の悪化、また、増体低下による生産性低下に加え、治療費を含め、経済的に大きな損失となります。

感染性

- ◇主な蹄病
 - 趾皮膚炎（しひふえん）（写真1）
 - 趾間（しかん）フレグモーネ
- ◇原因
 - 細菌感染（不衛生な牛床環境や蹄浴（ていよく）の不備）など
- ◇予防と処置
 - ①清潔で乾燥した牛床環境
 - ②抗生物質の投与
 - ③蹄浴（ていよく） ※蹄（ひづめ）に薬液を付着させるための浴槽を牛の通路に設置



（写真1）趾皮膚炎（しひふえん）
強い疼痛があり、治療しづらく再発しやすい。

非感染性

- ◇主な蹄病
 - 蹄底潰瘍（ていていかいよう）（写真2）
 - 白帯病、蹄球びらん
- ◇原因
 - 滑りやすい床などの牛床環境やバランスの取れていないエサ など
- ◇予防と処置
 - ①牛床の環境整備
 - 清潔で乾燥した滑りにくい床にする
 - 石や障害物を除去する
 - ②ルーメンアシドーシスの回避
 - 濃厚飼料と粗飼料のバランスを整える



（写真2）蹄底潰瘍（ていていかいよう）
後肢外蹄に発生することが多い。激しい痛みや出血を伴い、重度の跛行を呈する。

蹄病予防のために

- ① 年2回以上の定期的な削蹄
- ② ストレスのない牛床環境づくり
 - ・敷料はたっぷりと敷きましょう：蹄の角質の摩耗防止になります。
 - ・清潔で乾燥した牛床：細菌感染の防止および蹄の角質軟化による摩耗防止になります
- ③ 濃厚飼料と粗飼料のバランスを整える
 - ・飼養管理を徹底しましょう

〈衛生便り〉

鳥インフルエンザ等の発生に備えた防疫演習・埋却演習を開催しました

宮城県東部地方振興事務所畜産振興部

鳥インフルエンザや豚熱等の特定家畜伝染病の発生に備え、関係機関との役割分担の確認と連携強化のため、9月30日(火)に石巻合同庁舎にて防疫演習を、10月22日(水)に東松島市小松地区にて埋却演習を実施しました。

防疫演習では、机上演習と初動対応訓練を行い、机上演習では管内養鶏場での発生を想定し、異状鶏の通報から対策会議の開催、防疫作業の開始まで発生時の実際の流れを意識しながら関係機関との情報伝達訓練を実施しました。初動対応訓練では、石巻合同庁舎大会議室に支援センターを設置、屋外には農場テントを設営しました。その後、支援センターでの従事者の受付から防護服の着脱とそのサポート、従事後の体調確認まで、それぞれの役割分担や初動対応における準備・手順などを一つ一つ確認しました。

埋却演習は宮城県建設業協会石巻支部と共催で開催しました。防護服の着脱演習の他、農場外埋却地への搬出に係る運搬車両への積込・運搬演習、埋却溝への埋却手順について確認し、参加者は埋却作業の確実な実施について認識を深めることが出来ました。

今回の演習を特定家畜伝染病発生時における迅速な初動防疫体制の確立と確実な埋却作業の実施に活かしてまいります。

また、家畜伝染病の発生予防を図るには、飼養衛生管理基準の遵守徹底に努めることが重要です。生産者の皆様には管理状況の確認と改善をお願いします。



防疫演習（従事者の受付・体温チェック）



埋却演習（埋却物の積み込み）

(畜産振興班 熊谷 弘明)

〈農業大学校生の抱負〉

一步の勇気がつないだ畜産への道

宮城県農業大学校 畜産学部 阿部 優愛



私は非農家で生まれ育ち、高校に入学するまでは農業に携わろうとは思っていませんでした。何となく新しいことに挑戦したい。こんな思いから宮城県農業高校に入学しました。部活動は興味本位から牛部に入部。初めて近くで見る牛に惹かれました。毎日牛舎に行き、牛と向き合う毎日。正直大変で辞めたいと思うこともありましたが、気づけば牛は私の中でかけがえのない存在になっていました。出荷や屠畜と向き合わなければならない時期もあり、複雑な気持ちになる時も部員と助け合ってきました。周りから見れば、軽い気持ちで足を踏み入れたこの畜産業界。今の私は決して後悔していません。牛と向き合ってきて良かったと感じています。

高校卒業後の進路を考えなくてはならない時期になり、最初は進学をせず畜産関連の仕事に就こうと考えました。しかし、顧問の先生から畜産を学べる学校に行っただけが将来やりたいことの幅が広がると助言をされました。そこで、人工授精師、削蹄師の資格が取れ、畜産試験場で実習ができる宮城県農業大学校に進学を決めました。入学してからもう少しで一年になり、実習にも慣れ、高校では学べない畜産の知識が学べます。農大卒業後は、宮城県の畜産業に貢献できる仕事をしたいと考えています。畜産業においても、高齢化や担い手不足という課題があるなか、若い私たちが動かなければなりません。これからの宮城県の畜産業を発展させるため、宮城県を支えていけるような人材になりたいです。残り少ない学生生活ですが、勉強に向き合い、将来自分が後悔しないように頑張っていきたいです。

師の資格が取れ、畜産試験場で実習ができる宮城県農業大学校に進学を決めました。入学してからもう少しで一年になり、実習にも慣れ、高校では学べない畜産の知識が学べます。農大卒業後は、宮城県の畜産業に貢献できる仕事をしたいと考えています。畜産業においても、高齢化や担い手不足という課題があるなか、若い私たちが動かなければなりません。これからの宮城県の畜産業を発展させるため、宮城県を支えていけるような人材になりたいです。残り少ない学生生活ですが、勉強に向き合い、将来自分が後悔しないように頑張っていきたいです。

〈畜試便り〉

宮城県養豚研究会 令和7年度第2回研究集會を開催

宮城県畜産試験場

令和8年2月16日、宮城県養豚研究会（事務局：宮城県畜産試験場）主催による第2回研究集會を、古川商工会議所（大崎市古川）にて開催し、59名（うちオンライン参加35名）の皆様に参加いただき、盛会裡に終了しました。

今回の研究集會は近年の猛暑の影響と具体的な対策について理解を深めるため、「酷暑に対応した暑熱対策を考える」をテーマに開催しました。はじめに、株式会社食環境衛生検査所動物衛生コンサル事業部の玉置弓弦氏から、「暑熱被害と改善事例について」と題して講演いただきました。玉置氏からは、夏季の繁殖成績低下が顕在化しており、特に6～8月の出荷頭数減少は前年夏季に種付けされた母豚の繁殖成績低下に起因する可能性が高いことが示されました。また、暑熱対策は涼をとる（温度・体感温度の低減）、飼養管理、栄養管理の3点に整理され、分娩舎への家庭用エアコン設置等により、母豚の食下量改善、離乳頭数増加が認められた事例が紹介されました。さらに肥育舎においては、角度可変ファン等の活用により体感温度が低下した取組が紹介され、「体感温度」の重要性が強調されました。

続いて、「県内で行われている暑熱対策について」と題し、畜産試験場の今井技師、株式会社オダシマファーム代表取締役の小田島新一氏、有限会社大槻ファーム代表取締役の大槻越士氏より、県内事例の説明がありました。畜産試験場が実施したアンケート調査では、屋根遮熱塗装など設備投資を伴う対策の実施率は低いことが示され、ドローンによる畜舎屋根への遮熱材塗装の結果、舎内温度が約4℃低減した事例が報告されました。

さらに各農場から、凍結ペットボトルと送風の併用、地下水の活用、クーリングパドや自動制御ファンの導入など、農場規模や条件に応じた取組が紹介されました。

総合討論では、給餌回数の増加方法、飲水量確保の工夫、飼料添加剤の選択、品種と暑熱耐性の関係などについて活発な意見交換が行われ、飲水量の確保やカルシウム／リン比率の適正化など、具体的な知見が共有され、複数の対策を組み合わせることの重要性が改めて確認されました。

今回の研究集會では、暑熱対策に関する基礎知識から県内農場の具体事例まで幅広い情報が共有され、今後の夏季対策を検討するうえで有益な知見を得る機会となりました。

なお、次回は令和8年8月の開催を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。



(種豚家きん部 小林 朋生)

感動を呼ぶ製品をめざして

ORION

ハードシステムとソフトシステム
(ビフォー&アフターサービス)で
あなたの経営を応援。
これがオリオンの思想です。

中央オリオン株式会社

宮城営業所 〒989-6226 大崎市古川新田字泉屋敷59番4号
TEL : 0229-26-4330 FAX : 0229-26-4338

鳥、豚、牛のイラスト

畜産のネットワーク

NOSAI

宮城県農業共済組合
TEL 0229-87-8281

農業共済新聞

次の一手を未来につなげたい

総合印刷企業

株式会社 **東北プリント**

〒980-0822 仙台市青葉区立町24番24号
TEL 022-263-1166 FAX 022-224-3986
E-mail mail@tohokuprint.co.jp

〈人の動き〉

宮城県

退職（令和8年3月31日付）

農政部技術参事兼畜産試験場長
 畜産試験場上席主任研究員
 畜産試験場技師（農場業務主任）
 東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部長兼登米農業改良普及センター所長
 大河原家畜保健衛生所技術次長（班長）兼大河原地方振興事務所地方振興部企画員

菊地 武
 半沢 康弘
 加藤 秀樹
 安達 芳則
 安達 裕美

令和8年4月1日付

新	旧	氏名
農政部長	労働委員会事務局長	菊池 弘之
農政部副部長	大河原地方振興事務所副所長・総務部長	鈴木 政幸
農政部副部長（技術担当）	農政部みやぎ米推進課長	關口 道
農政部副部長（技術担当）	農政部農業政策室長	内海 章
環境生活部長	農政部長	石川 佳洋
総務部人事課長補佐（人材確保担当）	農政部理事兼副部長	安住 浩志
農業政策室技術補佐（農業DX推進担当）	農政部技監兼副部長（技術担当）	高澤 和寿
北部地方振興事務所栗原地域事務所長	農政部副部長（技術担当）	千葉 啓嗣
農政部副参事兼畜産課総括課長補佐兼家畜防疫対策室総括室長補佐	畜産課副参事兼総括課長補佐兼家畜防疫対策室総括室長補佐	庄子 智広
畜産課技術副参事兼総括課長補佐兼環境生活部放射性物質汚染廃棄物対策室	畜産課総括課長補佐兼環境生活部放射性物質汚染廃棄物対策室	柴田 知也
畜産課技術補佐（班長）	東部地方振興事務所畜産振興部技術次長（班長）兼地方振興部企画員	熊谷 弘明
畜産課技術補佐	畜産試験場酪農肉牛部長	石黒 裕敏
畜産課主任主査（副班長）	畜産課主査（副班長）	高津 ゆり
畜産課主任主査	仙台地方振興事務所地方振興部企画員	安藤 佳奈
畜産課技術主査	農業大学校技術主査	塚本 玲
畜産課	（新規採用）	櫻庭 大騎
家畜防疫対策室技術補佐（班長）	大河原家畜保健衛生所技術主幹（班長）	高野 泰司
家畜防疫対策室技術主査	仙台家畜保健衛生所技術主査	山梨 祐未
家畜防疫対策室	畜産課	山崎保奈美
大河原家畜保健衛生所長兼大河原地方振興事務所畜産振興部長	東部地方振興事務所畜産振興部技術副参事兼総括次長	網代 隆
大河原家畜保健衛生所技術主幹（班長）	家畜防疫対策室技術主任主査（副班長）	板橋 知子
大河原家畜保健衛生所技術主任主査	家畜防疫対策室技術主任主査（副班長）	佐久間 晶子
大河原家畜保健衛生所技術主任主査（班長）兼大河原地方振興事務所地方振興部企画員	農業政策室企画員（副班長）	野澤 隼人
仙台家畜保健衛生所長兼仙台地方振興事務所畜産振興部長	仙台家畜保健衛生所技術副参事兼総括次長	石橋 拓英
仙台家畜保健衛生所技術副参事兼総括次長	北部家畜保健衛生所総括次長	加藤 里子
仙台家畜保健衛生所技術次長（班長）	北部家畜保健衛生所技術次長（班長）	高森 広典
仙台家畜保健衛生所技術主幹（班長）	畜産試験場主任研究員兼食肉衛生検査所	曾地雄一郎
仙台家畜保健衛生所	北部家畜保健衛生所	秋山 桂郎
北部家畜保健衛生所総括次長	北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部総括次長兼技術次長（班長）兼地方振興部企画員	植田 都恵
北部家畜保健衛生所技術次長（監視伝染病対策担当）	農政部技術参事兼仙台家畜保健衛生所長兼仙台地方振興事務所畜産振興部長	早坂 駿哉
北部家畜保健衛生所技術次長	大河原家畜保健衛生所長兼大河原地方振興事務所畜産振興部長	山田 治
北部家畜保健衛生所技術次長（班長）	家畜防疫対策室技術補佐（班長）	鈴木 歩
北部家畜保健衛生所技術主任主査（班長）兼北部地方振興事務所地方振興部企画員	畜産試験場副主任研究員	杉本 達郎
北部家畜保健衛生所	（新規採用）	松村 春輝
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部総括次長	仙台家畜保健衛生所技術次長（班長）	真鍋 智
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技術主幹（班長）兼地方振興部企画員	大河原地方振興事務所農業振興部技術主幹（班長）兼病害虫防除所	渡邊 智
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技術主査	北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部	佐藤 浩庸
東部家畜保健衛生所総括次長	北部家畜保健衛生所技術次長（班長）兼北部地方振興事務所地方振興部企画員	菅原 賢一
東部家畜保健衛生所技術主査	北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部	高橋 春美
東部家畜保健衛生所	（新規採用）	久守 凜
東部地方振興事務所畜産振興部長兼東部家畜保健衛生所次長	気仙沼地方振興事務所農業振興部技術副参事兼総括次長兼気仙沼農業改良普及センター総括次長	遠藤 潤
東部地方振興事務所畜産振興部総括次長	仙台家畜保健衛生所技術次長（班長）	矢島 りさ
東部地方振興事務所畜産振興部技術主任主査（班長）兼地方振興部企画員	農業大学校技術主任主査	阿部 玲佳
畜産試験場長兼種豚家きん部長	北部地方振興事務所栗原地域事務所農業振興部長兼栗原農業改良普及センター所長	中條 満
畜産試験場酪農肉牛部長	東部地方振興事務所畜産振興部長・東部家畜保健衛生所次長	鶴田 昇
畜産試験場総括研究員（草地飼料部長心得）	東部家畜保健衛生所総括次長	豊島 稔
畜産試験場上席主任研究員	畜産試験場種豚家きん部長	武田 正寛
畜産試験場上席主任研究員	畜産試験場草地飼料部長	荒木 利幸
畜産試験場副主任研究員	畜産試験場研究員	福田 純子
畜産試験場研究員兼食肉衛生検査所	東部家畜保健衛生所	北 勇一郎
畜産試験場	（新規採用）	井盛 貴博
畜産試験場	（新規採用）	中田 風音
農業政策室技術主査	畜産課技術主査（副班長）	佐藤 文恵
農業大学校	畜産課	今田 彩音
観光戦略課技術主査	仙台地方振興事務所農業振興部	清沼 達也
仙台地方振興事務所農業振興部	畜産課	田中孝太郎
北部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部技術次長	気仙沼地方振興事務所農業振興部技術次長（班長）兼地方振興部企画員	清水 俊郎
東部地方振興事務所地方振興部技術主査	東部地方振興事務所地方振興部兼復興・危機管理部復興支援・伝承課	丹野 さやか
東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部総括技術次長兼登米農業改良普及センター	畜産課技術補佐（班長）	宍戸 嘉克
大崎高等技術専門校主査	畜産試験場主査兼農業大学校	後藤 裕太郎
防災砂防課主査	畜産課主査	松戸 信明

全国農業協同組合連合会宮城県本部

定年退職（令和8年3月31日付） 畜産部 生産販売課 仙北食肉販売所 所長
畜産部 市場流通課

桜井 弘
千葉 洋子

令和8年4月1日付

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes for the National Federation of Agricultural Cooperatives, Miyagi Prefecture Branch.

宮城県農業共済組合（NOSA I 宮城）

依願退職（令和8年3月31日付） 本所 第二事業部 次長
中央家畜診療センター古川支所 嘱託職員
県北家畜診療センター 専門員

松田 敬一
佐々木弘志
千葉 義則

令和8年4月1日付

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes for the Miyagi Prefecture Agricultural Mutual Aid Association (NOSA I Miyagi).

公益社団法人みやぎ農業振興公社

退職（令和8年3月31日付） 畜産・農村振興部白石牧場坪沼農場技師

加藤 晴也

令和8年4月1日付

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes for the Miyagi Prefecture Agricultural Revitalization Public Corporation.

一般社団法人宮城県畜産協会

依願退職（令和8年3月31日付） 総務課 主事
雇用期間満了（令和8年3月31日付） 総務課 課長
家畜衛生課 主査
価格安定課 主査
家畜改良課 主査

熊谷 綾乃
島貫 稔
北谷せつよ
三品 清美
渡邊 恵子

令和8年4月1日付

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes for the Miyagi Prefecture Livestock Association.

宮城県動物薬品器材協会(会員名)

(株)アスコ宮城営業所

仙台市泉区泉中央4丁目19-1 TEL022-347-4138

小田島商事(株)

大崎市古川清水字周防10-1 TEL0229-26-4567

M P ア グ ロ (株)

仙台支店 仙台市太白区富沢南二丁目8-9 TEL022-245-4306

(株)アグロジャパン南東北営業部宮城チーム

仙台市泉区八乙女3-3-1 TEL022-343-5301